

5.4 他都市事例紹介

本格実施に向けた検討の基礎資料とするため、下表に示す事例整理を行った。なお、事例では、超小型モビリティを活用しないカーシェアリングの取組も対象としている。

他都市事例整理一覧

選定の視点	使用車両	箇所	番号
ワンウェイ型の カーシェアリング	日産「New Mobility Concept」	神奈川県横浜市	事例1
	トヨタ自動車「i-ROAD」 トヨタ車体「コムス」	東京都心	事例2
住宅団地内での カーシェアリング	日産「New Mobility Concept」	神奈川県横浜市旭区 左近山団地周辺	事例3
市街地における訪問 医療での活用	ホンダ「MC-β」	熊本県熊本市	事例4
	日産「New Mobility Concept」	香川県高松市（塩江町、香川町、香南町、国分寺町、庵治町及び牟礼町を除く。）	事例5
郵便の集配作業での 活用	トヨタ車体「コムス」	愛知県名古屋市	事例6
都心部商業業務エリアにおける物流面での 活用	トヨタ車体「コムス」	東京都心	事例7
観光地で活用 （観光客向けの多様なサービスをセット）	日産「New Mobility Concept」	奈良県明日香村	事例8
多様な団体に貸出、幅広い用途でまちづくりに活用	トヨタ車体「コムス」	岡山県津山市	事例9
地方部の日常生活・高齢者支援の利活用	株式会社 HTM-Japan 「こむぎっちカー」	埼玉県児玉郡上里町	事例10
コミュニティ・カーシェアリング	一般車両	宮城県石巻市	事例11

事例1. ワンウェイ型のカーシェアリング／神奈川県横浜市

(1) 概要

「チョイモビ ヨコハマ」は、超小型モビリティを活用した大規模カーシェアリングの実証実験。

(2) 実施主体

日産自動車（株）、横浜市

(3) 期間

(第1期)平成25年10月～平成26年9月

(第2期)平成26年10月～平成27年9月

(4) 事例のポイント

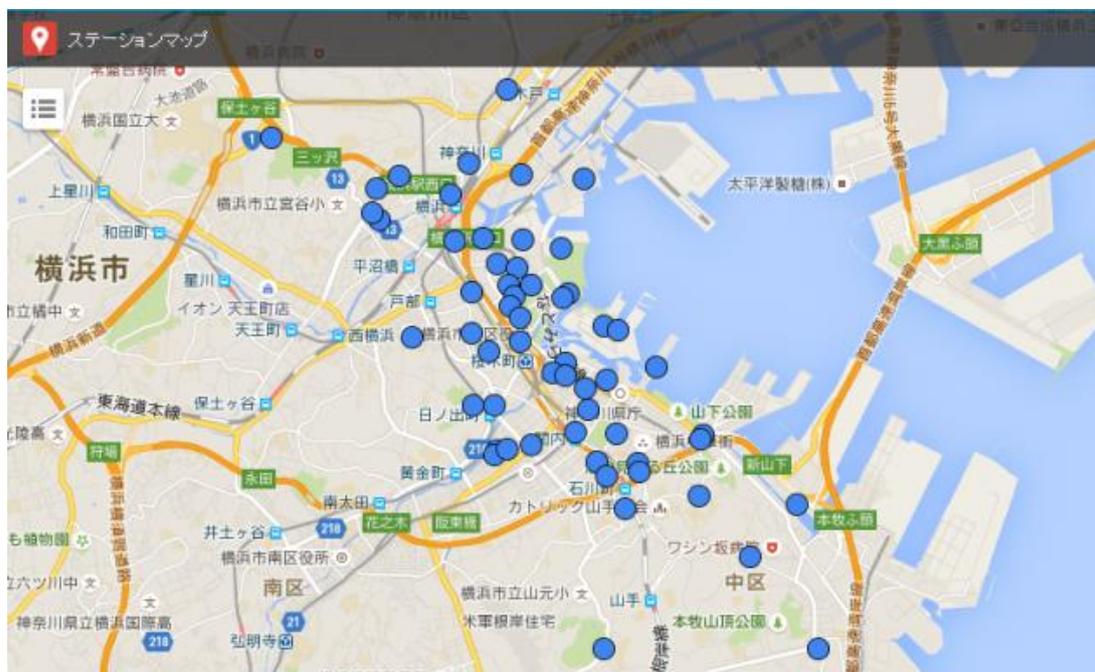
①大規模なワンウェイ型のカーシェアリング

○会員数：1万人3千人

○車両台数：70台（第2期：50台）

○貸渡・返却場所：横浜駅～みなとみらい21地区～山手・元町地区など、約60か所

図 5.1 貸渡・返却場所



②ICTを活用した予約・利用

○予約手続等はスマートフォン又はパソコンから。また、利用時には専用ICカードを使用。

③柔軟な料金体系（2年目突入時に料金を改定）

○第2期から料金体系を見直し、会員登録の有料化と、個人利用に2つのプランを導入。

■会員登録料（安全講習及びICカード代）：1,000円

■利用料金

□新料金プラン①：30円/1分 無料利用なし 月額会費：0円

※ 頻繁に利用されない方を想定しており、1分あたりの利用料金を30円とする月額会費は不要のプラン

□新料金プラン②：20円/1分 無料利用50分/月 月額会費：1,000円

※ 通勤での利用など、定期的に利用される方を想定しており、1分あたりの利用料金を据え置くプラン。なお、月額会費と同等額の無料利用枠を毎月設定。

■その他・・・企業が利用しやすいよう、法人向けの料金体系を導入。（例：関内地区の植物工場事業者が、レストランに野菜の配達を行う際に活用）

④多様な利用促進施策

○オシャレな使い方PR

○カラフルな車体

○レジャー施設、飲食店などとタイアップ（会員カード提示で割引等）

他

図 5.2 広報の例等



図 5.3 タイアップ例

よこはまコスモワールド スペシャル特典

4月27日(月)～5月10日(日)
※5月7日(木)は休園日となります。

Choyi Mobe会員カードを提示すると

乗り物回数券

2,300円分が1,800円に
(通常価格2,000円) (割引価格)

1,100円分が900円に
(通常価格1,000円) (割引価格)



●会員カード1枚につき1組5名様分まで、ご購入いただけます。
●有人チケット売り場にて、ご利用ください。
●その他特典・割引などの併用はできません。
●ご来園の際は、営業時間・休園日をご確認ください。
※よこはまコスモワールド内に、Choyi Mobeステーションおよび駐車場はございません。

(5) 利用状況（平成26年9月資料）

○会員数の内訳・・・会員の居住地は、横浜市内が半数、県外からの登録が1/4を占める。

○主な利用状況（1回あたり）・・・利用時間は約16分。移動距離は約3km。

事例2. ワンウェイ型のカーシェアリング／東京都心

(1) 概要

「Times Car PLUS × Ha:mo (タイムズカープラスハーモ)」は、トヨタ自動車㈱の「TOYOTA i-ROAD」(以下 i-ROAD) およびトヨタ車体制「COMS」を使った新シェアリングサービスの社会実験。

大都市におけるワンウェイ(乗り捨て)・近距離用途の需要について、商業施設等の目的地への直接移動や公共交通との連携利用、ビジネスシーンでの利用など、あらゆる利用ニーズに適応可能なシェアリングサービスとして、その有用性を検証する。

(2) 実施主体

パーク24㈱、トヨタ自動車㈱

(3) 期間

平成27年4月～平成30年3月

(4) 事例のポイント

① 民間のカーシェアリング事業者が実施

○「COMS」(25台)は、法人・個人を問わずタイムズカープラスの会員全てを対象に貸出。

「i-ROAD」(5台)は、法人会員と、「TCPプログラム¹⁾」のステージ2以上の個人会員を対象に貸出。「i-ROAD」のみ、利用前講習の受講が条件となる。

○トヨタが新しく開発した「Ha:mo」用車両管理システム「OMMS/2(One Mile Mobility Management System/2)」を初めて採用。会員ICカードでの利用の他、BLEビーコン受信に対応するスマートフォン²⁾の利用者は、会員カードの代わりに、車両に設置された車両ビーコンにスマートフォンでタッチを行いキーロックの開錠・施錠ができるなど、使いやすいサービスを提供している。

○料金は、i-ROAD が15分412円(税込)、COMS が15分206円(税込)。

② 乗り捨てが可能

○現在、貸出・返却ステーションは、千代田区(有楽町・日比谷)、中央区(日本橋・八丁堀・銀座・築地・勝どき)、江東区(豊洲・有明・東雲・門前仲町・木場)、港区(台場)、文京区(後楽)など30カ所程度あり、いずれのステーションでも貸出・返却が可能。今後ステーション100ヶ所、車両100台規模に拡大予定。

図5.4 貸出・返却ステーション



i-ROAD



P・COM

- i 「タイムズカープラス」を“みんなのために”大切に使うとポイントがたまり、ポイント数に応じたステージごとに優遇サービスが受けられるポイントプログラム。
TCP プログラムの詳細：http://plus.timescar.jp/about/tcp_program.html
- ii Bluetooth 4.0 に対応したiOS またはBluetooth Low Energy に対応したAndroid 4.3 以上のOS を搭載したスマートフォンが必要。

事例3. 住宅団地内でのカーシェアリング／神奈川県横浜市旭区左近山団地周辺

(1) 概要

郊外型大規模住宅団地である左近山団地における超小型モビリティを用いたカーシェアリングの実証実験。常時5台準備。

表 5.1 関連団地概要

団地名	所在地	管理開始	管理戸数	アクセス(街区により異なる)
左近山団地	横浜市旭区 左近山 16-1 他	昭和 43~44 年	2,102 戸	相鉄線二俣川駅から バス 13 分徒歩 1 分 横須賀線東戸塚駅から バス 20 分徒歩 1 分

(2) 実施主体

団地を管理する都市再生機構東日本賃貸住宅本部（UR）、日産自動車（株）

(3) 期間

平成 27 年 3 月～平成 28 年 2 月

(4) 事例のポイント

①住民の日常生活で利用

- 貸出・返却場所は、団地内の左近山ショッピングセンターと左近山ショッピングプラザ。
- 料金体系は、利用料金は最初の 20 分は無料で、以後 20 分ごとに 200 円加算する体系。

②24時間対応できる無人鍵貸出機を導入

- (株)フルタイムシステムの 24 時間無人鍵貸出機（F-rents 倶楽部）を利用する。（なお、同システムはマンションカーシェアリングシステムとして、既に 60 棟に導入された実績がある。）
- 貸出機を、遠隔から 24 時間監視をする体制で管理を行う。

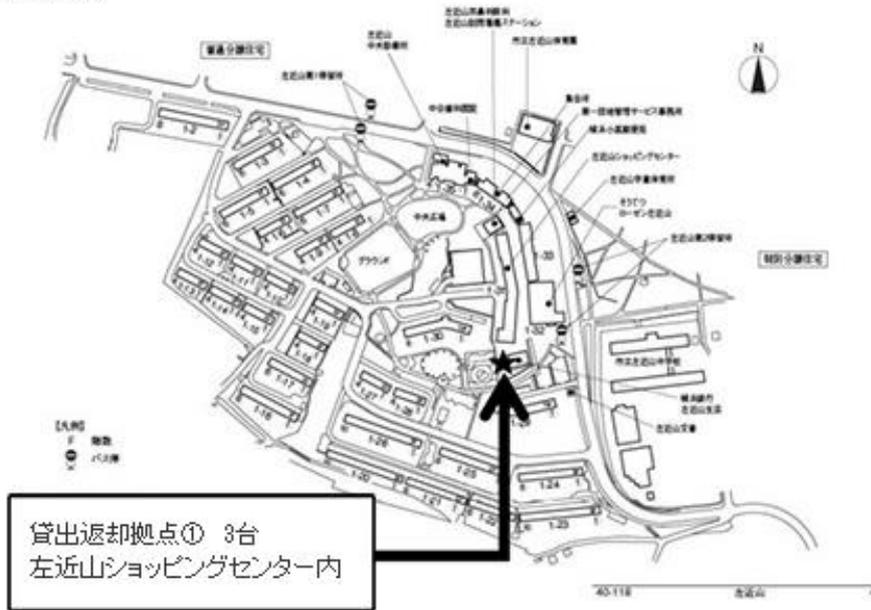


24 時間無人鍵貸出機
(F-rents)

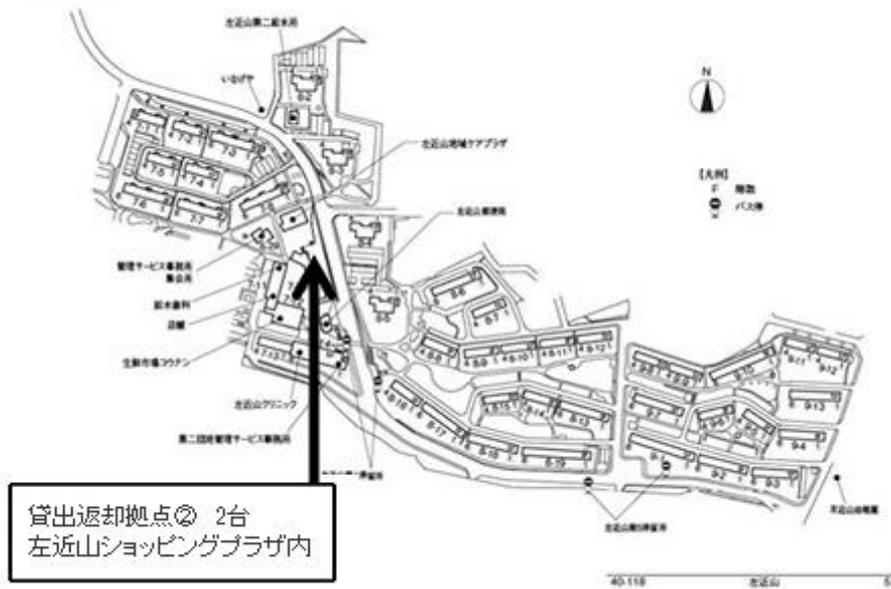
24 時間無人鍵貸出機

図 5.5 貸出返却拠点の位置

■ 配線図(詳細図1)



■ 配線図(詳細図2)



事例4. 市街地における訪問医療での活用／熊本県熊本市

(1) 概要

熊本県小型電動モビリティ導入促進協議会が取り組む事業の事業者モニターとして、くまもと成仁病院（熊本市）において、訪問介護や訪問リハビリのために超小型モビリティを活用した。

使用車両は、ホンダ MC-β（2台）。

(2) 実施主体

熊本県、ホンダ、くまもと成仁病院（モニター）

(3) 期間

平成 27 年 1 月～平成 27 年 3 月（無償）、平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月（有償 5,000 円／台）

(4) 事例のポイント

① 車両の小ささが大きな効果を発揮

○熊本市内の主要道路は片側 2～3 車線と広いが、表通りから一本裏に入ると狭い路地が多い。そのため、訪問先の前に駐車すると、車両等の往来の邪魔となり、月に 1～2 回程度は苦情電話が病院にかかっていた。

○超小型モビリティの活用により、路上に駐車しても邪魔になりにくいため、苦情電話が減少した。



使用車両

事例5. 市街地における訪問医療での活用／香川県高松市

(1) 概要

高松市、一般財団法人三宅医学研究所、日産プリンス香川販売株式会社の3者で高松市街地モビリティ推進協議会を設置し、走行中のCO₂排出量がゼロである電気自動車の超小型モビリティ（NISSAN New Mobility Concept）を試験的に3台導入。

現在、一般財団法人三宅医学研究所において、市街地を中心とした医療等の訪問サービスの足として超小型モビリティを利用し、市街地における狭い道路や駐車場での利便性や、電気自動車の静粛性など、有用性の検証を実施中。

エリアは、高松市（塩江町、香川町、香南町、国分寺町、庵治町及び牟礼町を除く。）

(2) 実施主体

（一財）三宅医学研究所、日産プリンス香川販売(株)、高松市

(3) 期間

平成26年10月～平成29年9月

事例6. 郵便の集配作業での活用／愛知県名古屋市

(1) 概要

名古屋市、日本郵便(株)、トヨタ車体(株)は共同で、郵便業務における集配作業に、4台の超小型モビリティを活用する実証実験を実施中。

実証実験では、超小型モビリティ認定制度保安基準に適合させ、積載量を60kgにアップした超小型電気自動車「コムス」を、名古屋中央郵便局、昭和郵便局、名古屋北郵便局、名古屋中郵便局の4局に配備。実際の集配業務などに活用し、軽自動車よりもコンパクトな車両の実用性、操作性、安全性を探る。

(2) 実施主体

日本郵便(株)、トヨタ車体(株)、名古屋市

(3) 期間

平成27年6月～



郵便配達用のコムス

事例7. 都心部商業業務エリアにおける物流面での活用／東京都心

(1) 概要

東京都心の業務／商業エリアである大手町・丸の内・有楽町地区（以下、大丸有地区）や神田・秋葉原地区等ではビルの建替え等に対応し物流も増大している。こうした状況を受けて、大丸有・神田地区等グリーン物流促進協議会が、大丸有・神田地区等を中心とする都心部業務・商業エリアをフィールドに「超小型モビリティの物流面での活用」を検証する実証実験を行った。

使用車両は、トヨタ車体 COMS LONG（2台）である。

また、実験に参加したモニター（事業者）は、大手特積み事業者1社（2拠点）、一般事業者2社、自営事業者1社である。

(2) 実施主体

大丸有・神田地区等グリーン物流促進協議会

(3) 期間

平成23年10月17日～平成24年2月29日

(4) 事例のポイント

① 端末物流に係る様々課題に対して効果を確認

○超小型モビリティを物流面で活用して検証した結果、荷捌きや駐車スペースの省スペース化への評価や効率的な小口集配及び細街路での集配時の優位が確認された。

- ・経路選択の幅が広がり集配の効率化が見込まれる。（従来の軽自動車よりも経路の選択肢が広がった。）
- ・店舗内やビルの軒先のスペースを有効活用した荷捌きや駐車がみられた。
- ・従来、軽自動車では低積載となっていた小口の配送について、超小型モビリティの利用が評価された。
- ・配送エリア内の手押し台車による長距離配送については、労務環境が改善される点、走行時の風雨や冷気を防ぐことができる点等が評価された。
- ・一般事業者が買い物した荷物を店舗から駐車場へ運ぶサービスに対して便利さが評価された。
- ・人の多い通りでの活用のしやすさ、安全性等が評価された。



集配用のコムス

事例8. 観光地での活用／奈良県明日香村

(1) 概要

「MICHIMO（ミチモ）」は、飛鳥地方（「橿原市」「高取町」「明日香村」の一部）への観光客向けに、タブレットを搭載した超小型モビリティを貸し出す実証実験。車両は11台（NISSAN New Mobility Concept）。



使用車両

(2) 実施主体

一般財団法人明日香村地域振興公社

(3) 期間

平成26年10月～

(4) 事例のポイント

①観光客向けのレンタルサービス

- 観光客が利用しやすいように、ナビゲーションシステム「MICHIMO ナビ」を搭載したタブレット（iPad mini）を貸し出し。（取り外して観光地で持ち歩くことが可能）
- 近鉄飛鳥駅のすぐ近くに、貸出ステーションあり。
- PC、スマホから簡単に予約可能。
- 料金は3時間3,000円／5時間4,750円／1日8,000円（全て税別）

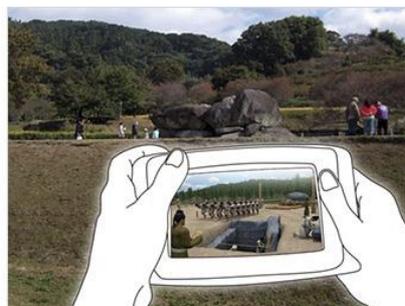
②楽しく観光するためのサービス：「MICHIMOナビ」

- タブレットにインストールされている「MICHIMO ナビ」は、iBeaconに対応し、観光スポットの各史跡・施設付近に近づくと、自動でそのスポットに関する豆知識と画像を表示して観光案内を開始する。
- iBeaconに対応する観光スポットは7か所（順次拡大の予定）。
- 360度視点での解説映像コンテンツ「バーチャル飛鳥京」を搭載。飛鳥京の往時の都や寺院の様子を、CGで再現する。

図 5.6 MICHIMO ナビ活用イメージ



iBeacon 活用時のイメージ画像



バーチャル飛鳥京利用時のイメージ画像

事例9. 多様な団体に貸出、幅広い用途で活用／岡山県津山市

(1) 概要

津山市では、超小型モビリティ 26 台を導入。「1人乗りコムス」が 25 台と「2人乗りコムス」が 1 台で、1人乗りコムスは、「津山市超小型モビリティ導入協議会」（大学、高専、商店街関係者、地元企業、まちづくり協議会、民間団体、市などで構成）で、商品配達、企業訪問、渉外活動、公用車等で活用し、二酸化炭素の削減効果の測定や新たな活用方法等の幅広い活用の可能性を検証する。

(2) 実施主体

津山市

(3) 期間

平成 26 年 10 月～

(4) 事例のポイント

① 多様な団体が独自の工夫で活用

借り受け団体（例）	用途（例）
にぎわい商人隊※	配達など
(株)マルイ、(株)天満屋津山店	商品宅配など
津山信用金庫、津山朝日新聞社	営業など
津山市社会福祉協議会	訪問介護など
津山歯科医師会	庶務、訪問指導など
津山洋学資料館	市役所との連絡など
城西まちづくり協議会	資料配付など
津山工業高等専門学校	事務連絡など
美作大学	実習先訪問、事務連絡など
アートインク津山	シェアオフィスでの活用・営業など
津山国際ホテル・津山鶴山ホテル	利用客の買物、ホテル関係者の業務など
その他	イベントでの観光意識PR、交通安全教室、フルマラソンの先導車

※津山市中心市街地の商店、街の代表が集まってできた団体



交通安全教室



「津山納涼ごんごまつり」の中で行われた踊り「和っしょい津山」の先導車



「加茂郷フルマラソン」の先導車

事例10. 地方部の日常生活・高齢者支援の利活用／埼玉県児玉郡上里町

(1) 概要

上里町では、バス・電車等の公共交通機関が少なく、少子高齢化が進むなか、新たな交通支援策が必要となっている。また当町では、低炭素社会を主政策の一つに掲げており、本調査では太陽光発電の電力で充電する利活用を想定したレンタルを一般家庭に行い、高齢者の自立支援、低炭素・安全な新たな交通手段としての可能性を検証した。

(2) 実施主体

上里町超小型モビリティ利活用推進協議会

(3) 期間

平成 27 年 11 月 30 日～平成 28 年 2 月 29 日

(4) 事例のポイント

①地方部の日常生活・高齢者支援の利活用

- モニター数 16世帯（一世帯2週間の貸し出し）
- 実施地区 上里町内
- 実験内容

- ① 町内の太陽光発電からの充電が可能な一般家庭を中心に、2週間単位でレンタルを行い、実施にむけての課題及び解決策を検討する（※75歳以下の優良運転者）
- ② ①同様対象者を通勤専用とし、有効性について検証する
- ③ 上記検証を、老若男女幅広く実施対象とする

②災害時の蓄電池としての活用可能性検証

○震災時における電力供給停止時、高齢者・病人・けが人・乳幼児に空調を中心とした電力を確保するため、動く蓄電器として小型モビリティの実効性について検証する。

■モニター数 4台

■実験内容

対象モビリティはDC48Vの動く蓄電器として、稼働時脱着可能な仕様になっており、避難所の電力を確保するためのシステム実証実験の一般公開を実施。



使用車両

図5.7 蓄電池としての活用



事例11. コミュニティ・カーシェアリング／宮城県石巻市

(1) 概要

被災地支援として、自動車不足の仮設住宅で、寄付による車両を用いたカーシェアリングを実施。当初より『石巻に市民型カーシェアリングの雛形を作る』という目的を掲げており、住民主導で運営する仕組みにより、高齢者等の外出支援や、地域コミュニティ形成にも貢献している。

(2) 実施主体

一般社団法人 日本カーシェアリング協会

※カーシェアリングを通して被災地支援を行いながら、新しい車文化を目指す非営利の組織。(カーシェアリングを取り組む企業の業界団体とは異なる)

(3) 期間

協会設立は平成23年4月に車集めからスタート。

(4) 事例のポイント

①協会の役割

- 協会が、車を提供したい企業・個人と車が必要な被災者の利用グループとを繋ぎ、被災地で車の共同利用(カーシェアリング)を行うサポートを実施。
- あくまでも運営や維持管理は利用者(グループ)自身が行う。

②実施までの流れ

- 車両の確保(石巻の場合は、寄付車両を活用。市広報等で呼びかけ)。最初の試行期間は無料で貸し出す。
- 車を一緒に使いたい人同士でグループを作り、責任者を決める。
- 試行運行(2週間～1ヶ月)を経て、運営ルール※をグループで決め、会を発足。
※予約の仕方、経費の捻出方法、鍵の管理等
- 車を登録(保有、リース、レンタルなど、各グループで選択)。
- 本格スタート(実施後も定期的に会合を開催)

③石巻エコEVカーシェアシステム

- 吉野町復興公営住宅では、電気自動車を太陽光のみで充電するカーシェアリングの仕組みを構築。
- 車両を、地域の非常用電源として活用することで防災力の向上が期待されている。



普及のためのガイドブック